

横浜市立すみれが丘小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○書く、話す活動を重視し、ノート指導の充実や話し方の基本指導を進め、互いに学び合う学習を展開します。	○ノート指導が定着しつつあり、各学年での指導が統一されてきている。 ○グループでの話し合い活動も多くの教科で取り入れられ、学び合う態度が育ってきている。	A B C D
2 豊かな 心	○道徳指導を充実するとともに、挨拶やいねいな言葉づかいのできる礼儀を尊重する子どもを育てていきます。 ○異学年交流やハートフル交流を進め、自他を尊重する心や態度の育成に努めます。	○計画的に道徳の指導を行うとともに、挨拶運動や日常の指導を通して相手を大切にする気持ちや態度を育てている。 ○異学年交流では、相手を思いやる気持ちや態度を育てている。	A B C D
3 健やかな 体	○体育科では、児童が運動の楽しさを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育の学習の充実を図ります。 ○給食後の歯磨き活動を通して、継続した歯磨きの大切さを意識できるようにします。	○体育科では、場の設定を工夫することにより、児童が運動の楽しさを実感できるように取り組んでいる。学校保健委員会や運動委員会の取組により、日常化できた。 ○歯磨き活動は、習慣化されている。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	○全ての子どもが学習の主体となるような「わかりやすく参加しやすい授業」の設計を進め、自主的に学習に取り組む姿勢を育てます。	○「授業のユニバーサルデザイン」の考えを大切にし、教室環境・言語環境・個に応じた指導等を充実させ、すべての子どもに分かりやすい授業作りを実践している。	A B C D
5 安全管理	○事故を防ぐための日常的な安全指導と環境整備を充実させます。 ○登下校の見守りや危機対応について家庭・地域との連携強化を図ります。	○各教科や日常の生活の中での事故を防ぐように、全職員が同じ姿勢で指導している。 ○登下校指導や危機対応への職員の意識をさらに高めるようにしたい。	A B C D
6 児童生徒 指導	○児童理解やよりよい指導の在り方について、計画的に研修の場を設け、保護者や外部機関とも連携しながら、組織的に対応していきます。	○年間複数の研修を計画的に行うことにより、常に自分たちの取組を見直しながら指導することができた。児童や保護者の立場に立ち、外部機関とも連携しながら取り組んでいる。	A B C D
人材育成 組織運営	○教務のメンバーを低・中・高学年ブロックの人材育成の核とし、中堅層を学年主任やリーダーとして育成していきます。 ○校内組織を精選し、担当を明確にすることにより、見通しをもって計画的に校内運営を行っていきます	○教務部と各学年との連携により、中堅層・学年主任が自己の役割を意識して進んで取り組んでいる。 ○構内組織や会議の精選により、各自が担当の仕事責任をもって行うことができた。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	ブロックテーマ「9年間を通した小中学校の連携・交流・共同の推進」と3つの子ども像を本校の「豊かな心の育成プラン」や「重点研テーマ」と関連させて取り組んだことで、「あいさつ運動への自発的な取組」や「問題解決力の育成」などに成果がみられていると、ブロック内の学校からの評価を得ている。
学校関係者 評価結果	○確かな学力に向けた「書く」ことを大切にしたい取組を一層進めてほしい。 ○進んで取り組める「体力アップ」は、外遊びの少ない今の子どもたちにとって必要なこと。今後の取組に期待したい。
評価結果に 対する 学校の見解	○ノート指導・書字指導を継続し「書く」力をつけていくとともに、自分の思いや考えを確かに伝えられ、またそれを受け止められるように「話す」こと・「聞く」ことの指導に力を入れていく。 ○体力アップにも継続して取り組んでいく。

学校経営 中期目標 達成状況	書いたり話したりする力の向上を目指しながら、すべての子どもに分かりやすい授業を目指して実践してきた。豊かな心の育成を目指し、異学年交流や日常の指導を充実させているが、一人一人の子どもに寄り添い、安心・安全な学校生活を送れるように次年度は一層力を入れていく。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○書く、話す活動を重視し、ノート指導の充実や話し方の基本指導を進め、互いに学び合う学習を展開します。	○重点研究の国語科では「伝え合う力の育成」をテーマに、指導の充実に努めた。学年に応じて「学習を振り返ることのできるノート」としてまとめられるように育ってきている。	A B C D
2 豊かな 心	○自己を深く見つめる道徳の時間の指導を充実させ、道徳実践力を育てます。 ○挨拶や言葉遣いを大切にする日常的な取組の積み重ねを通して、礼儀を尊重する子供を育てます。 ○異学年交流やハートフル交流を進め、自他を尊重する心や態度の育成に努めます。	○「私たちの道徳」やいろいろな資料を活用しながら、計画的に道徳の指導を行い、自分を深く見つめ、相手を大切にする気持ちを育てている。 ○挨拶や丁寧な言葉遣いの指導を継続して行っているが、自分から進んで挨拶する態度を育てていく必要がある。	A B C D
3 健やかな 体	○体育科では、児童が運動の楽しさを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育の学習の充実を図ります。 ○保健委員会・運動委員会を中心に進んで体力アップに取り組めるようにします。	○体育部を中心に、準備を協力して行い、場の設定を工夫した授業で児童は運動の楽しさを味わっている。 ○児童の委員会活動を中心に「体力アップ」を行い、大縄跳びなどに進んで取り組むことができた。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	○「授業のユニバーサルデザイン」の考えを基に教室環境・言語環境・個に応じた指導等をさらに充実させ、すべての子どもにとって「わかりやすく参加しやすい授業」を行って、自主的に学習に取り組む姿勢を育てます。	○「授業のユニバーサルデザイン」の考えを基に個に応じた指導等をさらに充実させた。学年で教材研究を十分行い、すべての子どもにとって「わかりやすく参加しやすい授業」を行えるようにした。	A B C D
5 安全管理	○事故を防ぐために、休み時間の見守りを強化し、日常的な安全指導と環境整備を一層充実させます。 ○登下校の見守りや危機対応等、家庭・地域との連携を強化します。	○家庭・地域と連携しながら、登校時と休み時間の見守りを強化し、日常的な安全指導を徹底した。正門の電磁錠の設置により、環境整備も進めている。	A B C D
6 児童生徒 指導	○年2回のアンケートの実施や児童との面談により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組めます。 ○児童理解・児童指導の研修を充実させ、児童と保護者に寄り添った指導を行います。	○年2回のアンケートや児童との面談を確実にし、いじめの未然防止に努めた。問題があったときには、児童と保護者に寄り添った指導を行ってきたが、課題の解決には時間が必要であった。	A B C D
人材育成 組織運営	○中堅層の役割を一層明確化し、学年主任やミドルリーダーとして育成していきます。 ○研究授業・校内研修を通して指導技術の一層の向上を図ります。	○研究授業・校内研修を通して指導技術の一層の向上をめざした。中堅層のリーダーシップのもと、自主的な研修や活発な研究協議を行って、授業力向上を図っている。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	「授業のユニバーサルデザイン」をブロック共通の取組として行い、他校の授業を見たり、本校でも重点的に取り組んだりしたことで「わかりやすく参加しやすい授業」を行うための様々な工夫などを小中連携の中で学び合うことができた。子どもたちが生き生きと学ぶ姿に成果が表れているとの評価を得ている。
学校関係者 評価結果	児童指導上の課題が学校運営上の課題として今年度は議論されてきたが、総体的に見ると、学校が立案した計画に基づき、適切に学校運営が行われていたと評価できる。今年度の課題を明らかにして、次年度の取組へつなげていってほしい。また、次年度の40周年記念の取組について協力していきたい。
評価結果に 対する 学校の見解	○25年度にA評価であった、「豊かな心」がBとなり、そこを十分に子どもの実態に合わせて組織的に展開できなかった点で反省が残った。一方安全管理については、リスクマネジメントに対する教職員の意識が高まり、施設面でも改善できたことは保護者からも評価を得ている。次年度に課題を明確にしてつなげたい。

学校経営 中期目標 達成状況	指導力の向上については、重点研究の国語科を通して、組織的に取り組み、ある一定の成果を残した。また、人と人との関わりのある学校づくりでは、積極的に外部人材を活用した授業を各学年で行った。防犯・安全指導の充実では、環境整備が一步進んだことが成果である。児童理解・児童対応では、困難を生じた学年があった。このことを今後の学校経営に生かし、未然防止力を高めていきたい。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	○書く、話す、話し合う活動を重視し、各教科領域の指導において推進する指導と、相手や場を意識した話し方の指導の充実を図り、児童がお互いに学び合う学習を展開します。	○重点研究の国語科では2年目の取組としての成果は表れたが、総じて、児童がお互いに学び合う学習の実現と、ノートづくりの指導の一層の工夫が必要である。	A B C D
2 豊かな 心	○自己を深く見つめる道徳の授業及び各教科領域の指導において推進する道徳教育を充実させ、礼儀を尊重する道徳実践力を育てます。 ○図画工作科、音楽科、特別活動における豊かな情操を育む創意ある活動を年間通して展開します。 ○異学年交流やハートフル交流を進め、自他を尊重する心や態度の育成に努めます。	○道徳の指導のみならず、児童の生活全般で自分を深く見つめ、相手を大切にする気持ち、礼をつくす態度を育てる取組を進めた。 ○豊かな情操を育む創意ある活動を年間通して展開し、児童の気持ちの変容が見られた。 ○ペア学年交流、ハートフルとの交流は児童育成に効果的であった。	A B C D
3 健やかな 体	○体育科では、児童が運動の楽しさを実感し、運動の日常化につなげられるよう体育の学習の充実を図ります。 ○保健委員会・運動委員会を中心に体力アップに継続的に取り組めるようにします。	○体育部を中心に、カリキュラムマネジメントを行い、運動の日常化を意識した授業展開を行った。 ○児童の委員会活動を中心に「体力アップ」を行い、休み時間を利用したダンスの取組を展開した。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	○校内及び教室環境・言語環境・個に応じた指導等をさらに充実させ、すべての子どもにとって「わかりやすく魅力ある授業」を行って、自主的に学習に取り組む姿勢を育てます。	○「授業のユニバーサルデザイン」の考えを基に個に応じた指導等を継続して行った。学年で教材研究を十分行い、すべての子どもにとって「わかりやすく参加しやすい授業」を行い自主的に取り組む姿勢を育んだ。	A B C D
5 安全管理	○事故を防ぐために、休み時間の見守りを行うとともに、日常的な安全指導と環境整備を一層充実させます。 ○登下校の見守りや危機対応等、家庭・地域との連携を強化します。	○昨年と同様の取組を推進したが、休み時間については、当番制を廃止したため、各学級の児童の様子は担任把握とした。登下校の見守りについては保護者の協力が必要である。	A B C D
6 児童生徒 指導	○年2回のアンケートの実施や児童との面談により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組めます。 ○児童支援専任を中心に児童理解・児童指導を組織的に展開し、児童と保護者に寄り添った指導を行います。	○担任と専任、養護教諭との連携を強化し、いじめの未然防止に努めた。問題があったときには、児童と保護者に寄り添った指導を行い、迅速・正確・丁寧な対応に努めた。	A B C D
7 保護者・ 地域との 連携	○サポーター協議会を中心とした保護者、地域の方々による教育支援組織と、学校懇話会、関係諸機関などとの関係性を整理、再構築し、連携力を高めます。	○10月1日付で学校懇話会から学校運営協議会に組織を改編し、連携力の一層の向上を図った。既存のサポーター協議会とともに、学校を支える組織のしくみが整った。	A B C D
人材育成 組織運営	○中堅層の役割を一層明確化し、学年主任やミドルリーダーとして育成していきます。 ○研究授業・校内研修を通して指導技術の一層の向上を図ります。	○研究授業・校内研修を通して指導技術の一層の向上をめざした。中堅層のリーダーシップのもと、自主的な研修や活発な研究協議を行って、授業力向上を図った。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	1中4小のブロックで、それぞれの学校の個性を大切にしながら、育てたい子ども像を共有するとともに、児童生徒指導の安定と学習指導の充実を図った。研修会では、9年間で身に付けさせたい力について、検討し、本ブロックとしては、主体性に重点を置いて、各学年の目標を設定した。学習面では授業研究会を通し、ユニバーサルデザインを軸に研究を深めた。
学校関係者 評価結果	課題点として明確になった、「健やかな体」については、児童が楽しく走る習慣を全校の取組で定着させる、外部講師の支援を受けて、しかけてみるなど、知恵を出していけば改善できそうである。次年度に向けての取組と成果を期待している。様々な保護者からの苦言もあると思うが、それを真摯に受け止め、活かしてほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	○昨年度と比較して、児童指導面ではとても学校全体が落ち着いた雰囲気になるとともに、40周年の年ということもあり、楽しく明るい感じに変容しているので、前向きな評価になっていると思われる。授業力の向上を更に図り、あと一歩となっている各課題の改善に着手していきたい。

学校経営 中期目標 達成状況	今年度は、単年度スローガンを設定し、目標の実現に向けて取り組む試みを行った。すると、単年度スローガンの定着がかなり図れたので、これは、次年度からも継続する。教職員間で最も達成度が高かったものは「児童理解に基づいた児童対応」の実現である。この成果をつないで、次期、中期計画に反映したい。
----------------------	--